

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)脱炭素社会実現のためのエネルギーシステム

第1回 推進委員会 議事要旨

1. 日時:平成 30 年 6 月 22 日(金) 13:30 ~ 15:30

2. 場所:経産省別館 1階 108 各省庁共用会議室

3. 出席者

【議長】

柏木 孝夫 プログラムディレクター

(東京工業大学 特命教授 / コージェネレーション・エネルギー高度利用センター 理事長)

【構成員】

< サブ・プログラムディレクター >

(B) ワイヤレス電力伝送(WPT)システム

庄木 裕樹 サブ・プログラムディレクター

(株式会社東芝 研究開発本部研究開発センターワイヤレスシステムラボラトリー 上席エキスパート)

(C) 革新的炭素資源高度利用技術

瀬戸山 亨 サブ・プログラムディレクター

(三菱ケミカル株式会社 執行役員・フェロー / 横浜研究所 瀬戸山研究室 室長)

(D) ユニバーサルスマートパワーモジュール(USPM)

高橋 良和 サブ・プログラムディレクター

(東北大学 国際集積エレクトロニクス研究開発センター 教授)

< イノベーション戦略コーディネーター >

(A) エネルギーマネジメント

浅野 浩志 イノベーション戦略コーディネーター

(電力中央研究所 エネルギーイノベーション創発センター(ENIC) 研究参事)

塩沢 文朗 イノベーション戦略コーディネーター

(住友化学株式会社 レスポンシブルケア部気候変動対応(兼)技術・研究企画部 主幹)

< 関係省庁 >

近藤 玲子 総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 課長

(代理:由本 聖 電波環境推進官)

藤吉 尚之 文部科学省 研究開発局 環境エネルギー課 課長

沼舘 建 経済産業省 製造産業局 素材産業課 革新素材室 室長

石川 浩 経済産業省 製造産業局 自動車課 電池・次世代技術室 室長

(代理:蘆原 瑞應 自動車課 課長補佐)

靄田 将範 経済産業省 製造産業局 航空機武器宇宙産業課 宇宙産業室 室長
(代理:國澤 朋久 室長補佐)
田中 伸彦 経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 デバイス・情報家電戦略室 室長
(代理:門田 裕一郎 情報産業課 課長補佐)
水谷 好洋 環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 地球温暖化対策事業室 室長

< 管理法人 >

野口 義博 科学技術振興機構 イノベーション拠点推進部 SIP 第2グループ 部長
大塚 進 科学技術振興機構 イノベーション拠点推進部 SIP 第2グループ 調査役

< 事務局 >

黒田 亮 内閣府 科学技術・イノベーション担当 大臣官房審議官
竹上 嗣郎 内閣府 科学技術・イノベーション担当 参事官
太田 志津子 内閣府 科学技術・イノベーション担当 参事官
梅北 栄一 内閣府 科学技術・イノベーション担当 企画官

4. 議事(公開)

- (1) 推進委員会の設置及び運営要領について
- (2) 研究開発計画(案)について
- (3) 研究者公募の方法、審査基準等について
- (4) 今後のスケジュール
- (5) その他

5. 配付資料

資料1 - 1 SIP「脱炭素社会実現のためのエネルギーシステム」推進委員会の設置について
資料1 - 2 SIP「脱炭素社会実現のためのエネルギーシステム」推進委員会運営要領(案)
資料2 - 1 SIP「脱炭素社会実現のためのエネルギーシステム」研究開発計画(案)
(パブコメ版)
資料2 - 2 8. 脱炭素社会実現のためのエネルギーシステム
資料2 - 3 脱炭素社会実現のためのエネルギーシステム (C) 革新的炭素資源高度利用技術
資料2 - 4 エネルギーマネジメント
- エネルギー貯蔵・輸送技術の評価とシステムのグランドデザイン -
資料3 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「脱炭素社会実現のための
エネルギーシステム」における研究者公募の方法、審査基準等について(案)
資料4 今後のスケジュール(案)
参考資料1 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の概要
参考資料2 科学技術イノベーション創造推進費に関する基本方針

- 参考資料3 戦略的イノベーション創造プログラム運用指針
- 参考資料4 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期
(平成29年度補正予算措置分)の実施方針
- 参考資料5 統合イノベーション戦略<抜粋>

6. 議事要旨

議事に先立ち、柏木議長より挨拶を行った。また、事務局よりサブ議長、戦略C、関係省庁、管理法人、事務局の紹介を行った。

議事の進行は事務局による。

(1) 推進委員会の設置及び運営要領について

資料1-1と資料1-2に基づき事務局より説明を行った。

推進委員会の運営要領については、資料1-2の事務局案のとおり了承された。

(2) 研究開発計画(案)について

資料2-1から資料2-4に基づき、柏木議長より全体の概要説明、庄木サブPD、瀬戸山サブPD、高橋サブPD、浅野戦略Cより各テーマの説明、事務局よりその他の計画案の説明を行った。

出席者からの主な発言は以下の通り。

・各省庁で進められているプロジェクトと重複せず且つインター省庁にすることによって一層のその成果が図られるような形で推進したい。(柏木議長)

事前確認を行っており、総務省との施策と重複は無い。(総務省 由本推進官)

今回のプロジェクトで文科省の施策で重複するものは無い。

エネルギーマネジメントは、どのようにまとめられるのか。(文科省 藤吉課長)

今年度末にまず研究会の報告書としてまとめたい。(浅野戦略C)

次年度の研究開発計画に反映する可能性もある。(塩沢戦略C)

ここで取り上げている技術分野で重複している部分は無い。(経産省 沼舘室長)

主としてEV給電を担当しているが、事前に重複が無いことを確認している。(経産省 蘆原補佐)

宇宙産業室では、過去の研究開発の技術・ノウハウの還元を行って行きたい。また、当室では、発電電一体型のパネル、太陽光パネルの研究開発にシフトする予定のため重複は無い。(経産省 國澤室長補佐)

環境省はどちらかと言うと社会実装の役割を担っており、今までも調整している。また、今後も常に連携しながら

ら行って行きたい。(環境省 水谷室長)

・重複が無いことに感謝する。今後は全体をまとめるうえでシナジー効果をつかいうまく全体をまとめる。
(柏木議長)

(3) 研究者公募の方法、審査基準等について

資料3に基づき、管理法人の大塚調査役より説明を行った。

・このスケジュールをデッドエンドとして推進して下さい。(柏木議長)

(4) 今後のスケジュール

資料4に基づき、事務局より説明を行った。

(5) その他

最終的な研究開発計画については、柏木議長に一任頂くことで委員会の承認を得た。

最後に黒田審議官が閉会の挨拶を行った。

次回の推進委員会は、評価前に開催予定。